

## 再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b> 一般国道18号 <small>さかきこうしよく</small> 坂城更埴バイパス（延伸）	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 関東地方整備局	
<b>起終点</b> 自： <small>ながのけんちくましいなりやま</small> 長野県千曲市稲荷山 至： <small>ながのけんながのししののいしおざき</small> 長野県長野市篠ノ井塩崎		<b>延長</b> 2.6km	
<b>事業概要</b> 一般国道18号は、群馬県高崎市を起点とし、長野県上田市、長野市を経て新潟県上越市に至る延長約194kmの主要幹線道路である。坂城更埴バイパス（延伸）は、一般国道18号および周辺道路における交通渋滞緩和、交通事故の減少、救急医療施設へのアクセス性向上を目的に計画された事業である。			
H20年度事業化	S60年度都市計画決定	H22年度用地着手	H26年度工事着手
<b>全体事業費</b> 約87億円		<b>事業進捗率</b> 42%	
<b>計画交通量</b> 9,900～10,400台/日		<b>供用済延長</b> 0km	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.7	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 48/86億円 (事業費) 40/78億円 (維持管理費) 8.5/8.5億円	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 142/142億円 (走行時間短縮便益) 85/85億円 (走行費用減少便益) 43/43億円 (交通事故減少便益) 14/14億円
	<b>(残事業)</b> 2.9	<b>基準年</b> 平成27年	
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】 交通量 : B/C= 1.4～1.9 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C= 1.5～1.8 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C= 1.5～1.8 (事業期間± 2年)			
<b>【残事業】 交通量 : B/C= 2.5～3.4 (交通量 ±10%)</b> <b>事業費 : B/C= 2.7～3.2 (事業費 ±10%)</b> <b>事業期間 : B/C= 2.7～3.1 (事業期間± 2年)</b>			
<b>事業の効果等</b>			
①国道18号現道の渋滞状況 ・国道18号現道の損失時間は、坂城更埴バイパス（延伸）と並行する区間で、137.9千人時間/年・km。 ・並行する国道18号現道内には、主要渋滞箇所を選定されている交差点が存在している状況。 ・暫定2車線開通区間の並行区間の損失時間は低いが、一方で国道18号に接続する付近の損失時間が顕著。 ・坂城更埴バイパス（延伸）の整備により、現道の交通の転換が図られ、国道18号現道の渋滞緩和が見込まれる。			
②国道18号現道の死傷事故状況 ・国道18号現道の死傷事故率は、坂城更埴バイパス（延伸）と並行する区間で、77.0件/億台・km。 ・事故類型は追突による事故が多く、全体の約8割を占める。 ・また、国道18号の混雑を避け、並行する（主）長野上田線に大型車等の通過交通が流入し、地域の安全面でも懸念。 ・坂城更埴バイパス（延伸）の整備により、現道や並行路線からの交通転換が図られ、交通事故の減少が見込まれる。			
③地域の医療活動への支援 ・千曲市八幡地区から長野市にある第二次救急医療施設の篠ノ井総合病院にアクセスする国道18号現道には、主要渋滞箇所が複数存在することから救急搬送に支障をきたしている。 ・坂城更埴バイパス（延伸）が整備されることで、八幡地区から篠ノ井総合病院への所要時間が約7分短縮し、円滑な救急医療活動を支援。 ・また当該区間の整備により、救急医療施設へのアクセス性が向上し、救命率の改善が見込まれる。			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 長野県知事の意見：一般国道18号「坂城更埴バイパス（延伸）」は、交通渋滞の緩和や交通事故の減少、救急医療施設へのアクセス向上に寄与する必要不可欠な事業です。については、事業を継続し、積極的な予算確保により、早期開通を図るよう強く要望します。また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。			
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業の継続を承認する。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> H21年3月に当該事業の先線の上田坂城バイパス（上田市小泉～埴科郡坂城町南条：延長2.3km）が暫定2車線で供用。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成22年度より用地着手し、平成25年度から埋蔵文化財調査に着手、用地取得率は約73%（平成27年3月末時点）起点側（千曲市稲荷山）の家屋移転、工所用道路整備を完了後、トンネル工事に着手予定。終点側（長野市篠ノ井塩崎）は、埋蔵文化財調査を実施。			

**事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等**

平成25年度から着手した埋蔵文化財発掘調査において、当初の想定以上の遺構が確認されているため供用開始年次を平成30年度から平成34年度へ変更。今後も用地取得の促進を図り、早期完成を目指す。

**施設の構造や工法の変更等**

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に取り組む。

対応方針 事業継続

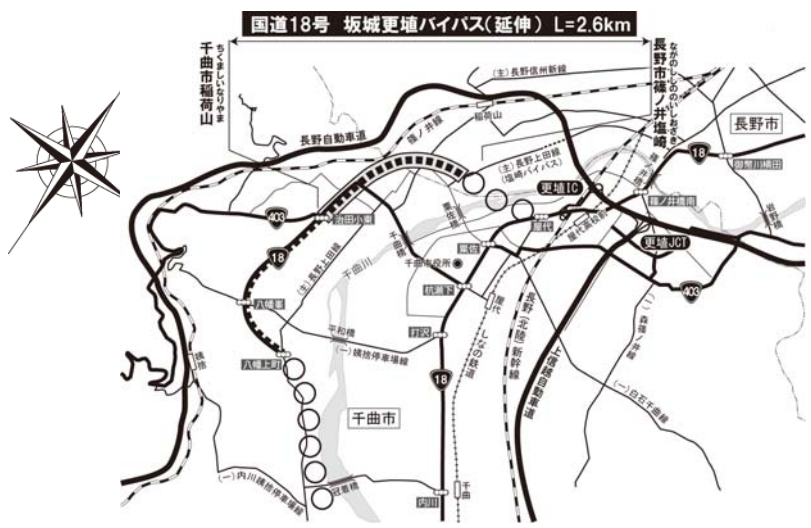
**対応方針決定の理由**

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

**事業概要図**



凡例	
	供用中
	事業中
	計画中
	再評価箇所



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。